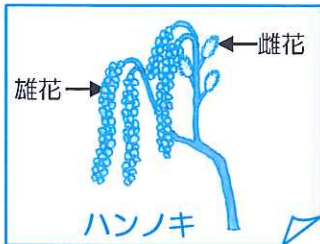
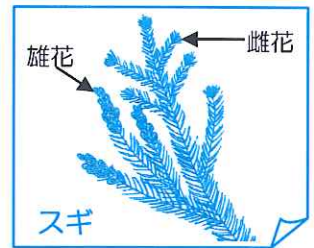


■ 旅する植物～春の大冒険～ ■

この冬、気温はほぼ例年通りで正午の最低気温は-7.6℃(2月5日)でした。雪は11月から積もり始め、12月には80cmを越すいきなり的大雪！それからの積雪は3月12日の152cmを最高に全体的には上下なく雪が積もりました。その雪も解け始めるこの季節。みんなが待ちこがれる春…と思いきや、目を腫らしたりティッシュが手放せなかったりと、ツライ人もいるのではないのでしょうか…？ そう、花粉が動き出す季節でもあるのです。

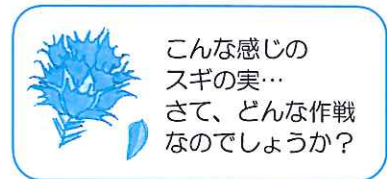
植物はじっと動かず一生を過ごすものと思いがちですが、旅もします。春は雪解け、芽吹き、そして花々が咲きます。花といってもタイプは様々。しかし花を咲かせるのは、皆、“子孫(タネ)をつくる”ためです。そのため花粉がめしべ※めがけて旅をします。(※裸子植物の場合は“胚珠”) 多くの人が花粉でお困りのスギ。



花を見たことがありますか？ スギ、ヒノキ、ハンノキ、カバノキ、マツなどは、雄花と雌花があり花粉と胚珠のある花が別々です。そこで雄花にある花粉は風に乗って、運命の雌花まで大旅行！血縁が遠い雌花を求め、たくさん花粉を飛ばします。旅立ちやすいように雄花は枝先につき、花粉の大きさも風に乗って雌花にとまるように工夫されています。中にはマツの花粉のように浮き袋がついているものも！

我々も心を奪われるほどの美しさや香りをもつ花は、やってきた虫や鳥など動物の身体に花粉を付け運んでもらう作戦です。来てくれた動物には蜜などおいしいものをプレゼントし、香りや色、姿、まとまって多く咲くなどして「ここだよ！」とアピールする商売上手たちです。サクラの間もこのタイプ。まだ寒い頃に咲くフクジュソウは自身が温くなることで虫を誘うとか！他にも色んな作戦の植物があり、みんな、いかに花粉を届けるか工夫をこらしています。

植物はタネでも旅します。旅するタネの工夫はどんなものか…花粉やタネにも着目して、身の回りの植物や動物を、よく観察してみてくださいね。

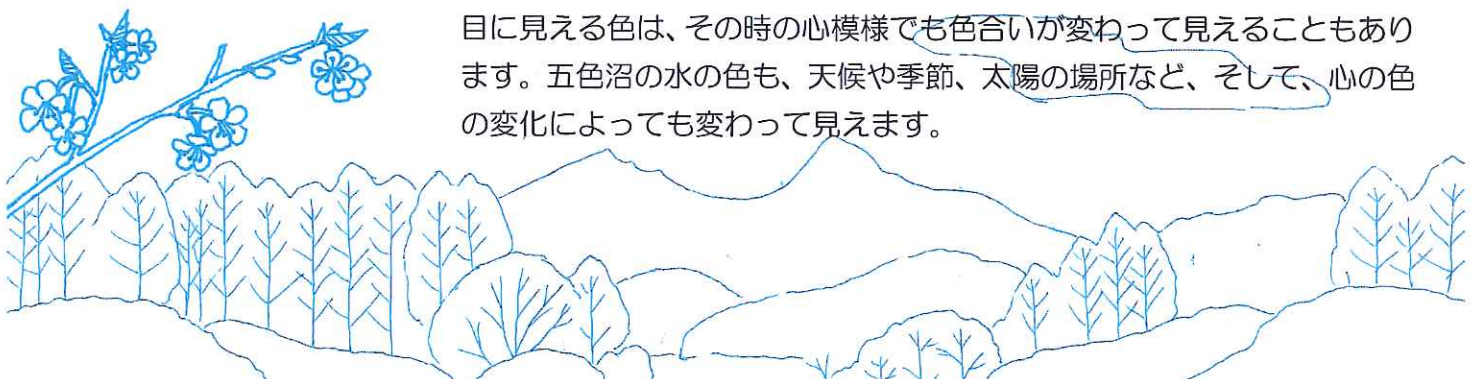


■ 裏磐梯の色 ■ 裏磐梯でみられる色のお話です

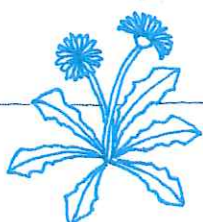
5種類の色を取り上げてきた「裏磐梯の色」ですが、色は数を数えられるようなものではないと思います。

日本では7色の虹も、7色とされていない国もあります。

目に見える色は、その時の心模様でも色合いが変わって見えることもあります。五色沼の水の色も、天候や季節、太陽の場所など、そして、心の変化によっても変わって見えます。



春の気配を感じられるようになってきたこの時季は、色の変化が大きい時ではないでしょうか？
木々の枝先を見ると、うっすら緑色になっていたり、もう間もなくすると見られる、フクジュソウやマンサク、ミズバショウの黄色も待ち遠しいですね。



気が早いかもしれませんが、夏の深い緑や秋の紅や黄色などを思うと、今から明るい気持ちになりませんか？

あなたの周りの景色は、どんな色に変わっていくのでしょうか！



イラストに色をぬってみてね！ほんものごと自分のイメージはぴったりでしょうか？